

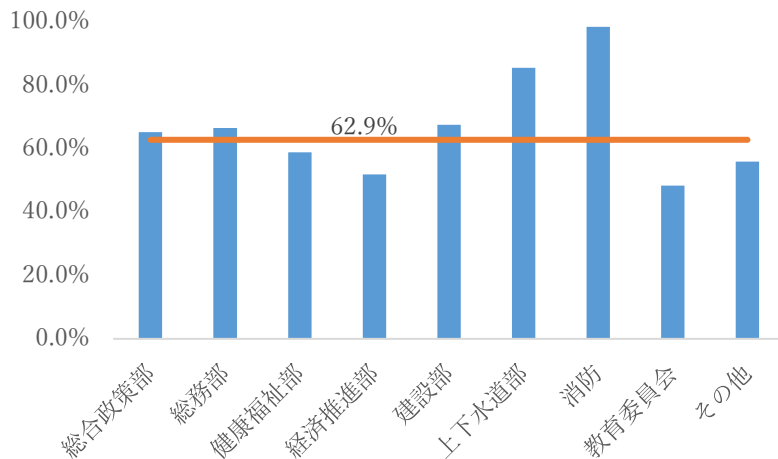
協働に関する職員アンケート調査結果

職員の協働に関する意識調査を行うため、職員（会計年度任用職員を含む）823 名を対象に、アンケート調査を実施しました。回答件数は521 件、回答率は63.3%でした。ご協力ありがとうございました。

1. 回答者所属

所属を特定できない回答が3 件あったため、有効回答 518 件、回答率 62.9%となりました。

総合政策部、総務部、建設部、上下水道部、消防で全体の回答率を上回りました。

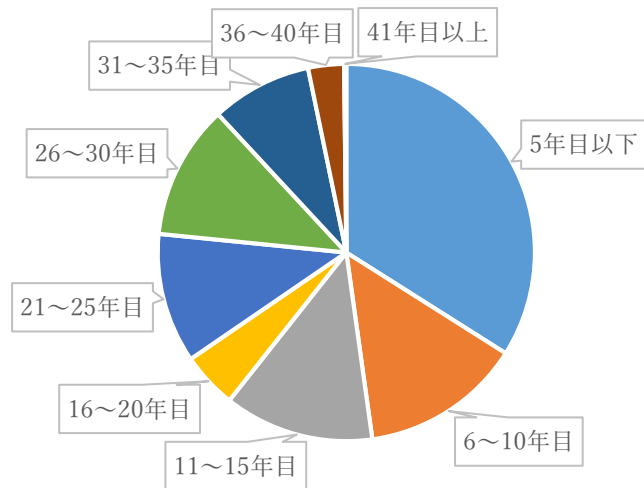


部名	人数	回答数	回答率
総合政策部	52	34	65.4%
総務部	111	74	66.7%
健康福祉部	212	125	59.0%
経済推進部	50	26	52.0%
建設部	68	46	67.6%
上下水道部	35	30	85.7%
消防	76	75	98.7%
教育委員会	194	94	48.5%
その他	25	14	56.0%

※ その他：議会事務局、危機管理室、出納室、選挙管理委員会、監査委員事務局

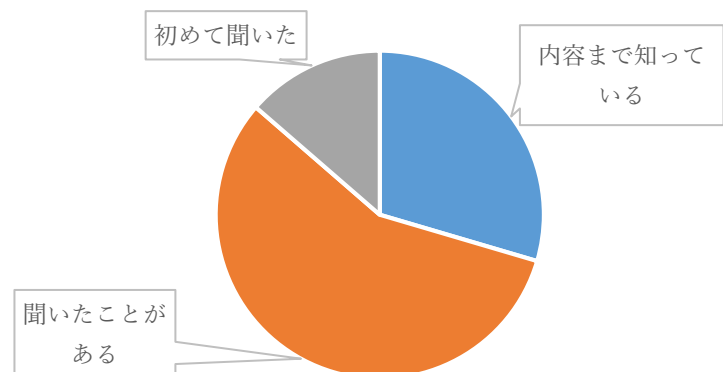
2. 勤続年数

勤続年数	回答数	割合
5 年目以下	177	34.0%
6～10 年目	72	13.8%
11～15 年目	67	12.9%
16～20 年目	25	4.8%
21～25 年目	58	11.1%
26～30 年目	60	11.5%
31～35 年目	45	8.6%
36～40 年目	16	3.1%
41 年目以上	1	0.2%



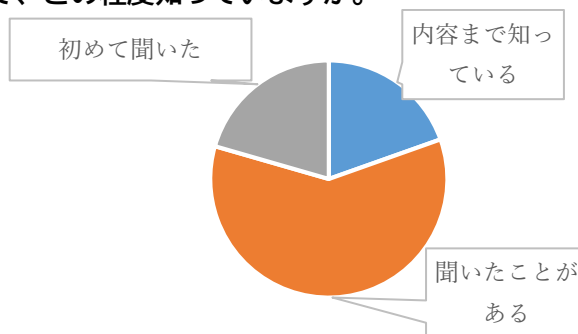
3. 「橋本市の自治と協働をはぐくむ条例」について、どの程度知っていますか。

選択肢	回答数	割合
内容まで知っている	154	29.6%
聞いたことがある	296	56.8%
初めて聞いた	71	13.6%



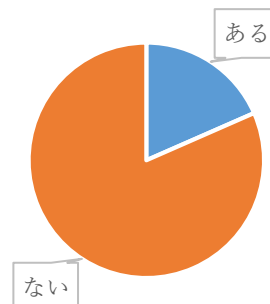
4. 平成 20 年策定の「橋本市協働の基本指針」について、どの程度知っていますか。

選択肢	回答数	割合
内容まで知っている	102	19.6%
聞いたことがある	312	59.9%
初めて聞いた	107	20.5%



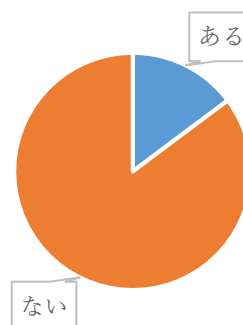
5. 今年度の担当業務において、地縁組織（区・自治会など）や市民活動団体（ボランティア団体・特定非営利活動法人など）と協働の実績はありますか。

選択肢	回答数	割合
ある	96	18.4%
ない	425	81.6%



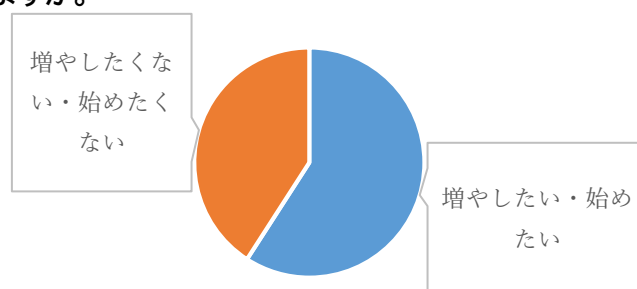
6. 今年度、業務以外で協働の取組みを行ったことがありますか。

選択肢	回答数	割合
ある	77	14.8%
ない	444	85.2%



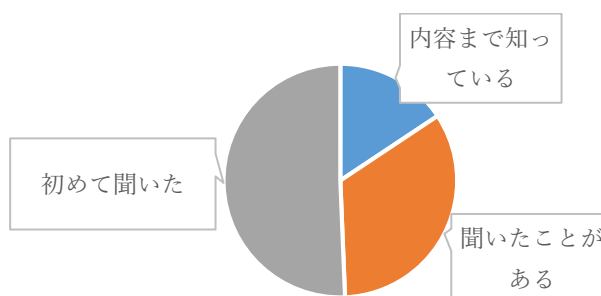
7. あなたは今後、協働を増やしたい・始めたいと思いますか。

選択肢	回答数	割合
増やしたい・始めたい	308	59.1%
増やしたくない・始めたくない	213	40.9%



8. 市内の協働を広げることを目的に令和 6 年度設立された「はしもとプラチカ」をどの程度知っていますか。

選択肢	回答数	割合
内容まで知っている	73	15.7%
聞いたことがある	157	33.7%
初めて聞いた	236	50.6%



※ 以降は自由記述に関する回答です。回答は抜粋で、原文のままとなっています。

9. 今年度の担当業務において、地縁組織（区・自治会など）や市民活動団体（ボランティア団体・特定非営利活動法人など）と協働の実績はありますか。

事業名、概要、主な成果、課題を記載して下さい。（担当業務の協働の実績のうち、主なもののひとつ）

【事業名】地域ふれあいサロン事業 【概要】高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていける地域づくりのために、地域の住民が中心になって、寝たきりや認知症の予防、孤独感の解消、生活範囲の拡大並びに生きがいづくりを図ることを目的とし、高齢者が地域で気軽に集える継続的な憩いの場を運営する事業に対し、補助金を交付する。 【主な成果】令和6年度で3団体新規参入され、現在は全部で44団体になった。 【課題】各サロンによってやっている内容など様々だが、女性しかいないサロンがあったり活動人数が少なくなっているサロンもあるので、もっと広く広めていく必要がある。
【事業名】くらし応援隊事業 【概要】生活環境課が開催している「くらし応援隊養成講座」を受講された市内に住所を有する方が、任意でくらし応援隊に登録。活動目的は、消費者被害の未然防止・拡大防止・早期発見を図るために、橋本市内において消費者啓発の推進及び消費生活情報の収集に努め、意見や情報交換、共有を図る。街頭啓発やイベントに参加など消費者問題の啓発活動を行っている。 【主な成果】市民への消費者問題の意識の高まりに寄与 【課題】会員の高齢化
【事業名】はしもとプラチカによるみんなでチャレンジ！事業 【概要】年間5回の「協働の実践」をテーマとした活動を行う。 【主な成果】プラチカメンバーが主体で活動への市民参加を募った結果、順調に参加者が集まっている。参加し活動を通じて交流することにより第2層の取組みを知った方が、高齢者食堂へボランティア参加してくれたり協働の実践が広がっていることを実感している。 【課題】活動に伴走している市職員の土日勤務が増えていること。
【事業名】①橋本市公式LINEの区・自治会情報の連携 ②声の広報作成 【概要】①市内の各地域の情報を橋本市公式LINEの一部を利用して各地区の区長に配信してもらう。 ②広報を読めない方のために、ボランティアサークルに広報を読み上げてもらい、録音したものをHPにアップしている。 【主な成果】①市が管理しきれない、地域の細かい情報の配信が可能になった。 ②広報が読めない人に内容を届けることが出来ている。団体が当日出展や準備・片付けを行った。 【課題】①配信クオリティが担保できない。 ②ボランティアサークルの高齢化
【事業名】橋っ子祭り 【概要】子どもが企画・運営するイベントに協力いただいた。 【主な成果】子どもだけでは力が及ばないところをサポートしてもらった。 【課題】協力してくれた事業者には決して少額ではない人件費が発生した。

【事業名】防災・減災啓発事業 【概要】市民への防災意識向上と災害への備えのための学習の機会提供を自主防災組織や防災士会、区・自治会と協働し行い、自助力の向上につなぎ、安心・安全な市民生活に寄与する 【主な成果】自主的な学びの機会の確保につながる。継続的な取り組みが可能になる。 【課題】未実施エリアが存在する（地域格差）
【事業名】すこやか橋本まなびの日 【概要】社会教育団体と協働して、地域の中で世代を越えて学び、心身ともに健康な人づくり、温かいふれあいの地域づくりの契機としている。 【主な成果】実行委員会は、社会教育関係者で構成され、多様性のあるメンバー。またイベント開催については、団体と協働して準備から片付けまでを行っている。 【課題】一部で事務局である行政に頼りがちな側面がある。
【事業名】信太地区活性化事業 【概要】令和3年10月橋本市高野口信太地区振興協議会及びその下部組織の信太地区ふるさと魅力アップ部会を設立し、信太地区の活性化のため活動する。 【主な成果】信太地区の全住民を対象にしたアンケートを実施し、活動の目的を「信太地区の存続 ～農山村文化の継承⇒発展で地域を豊かに～」と定め、地域の魅力を発掘・発信するイベントを開催し、定住・関係人口の創出を目指した活動を実施している。このイベントの参加者の中の一組が嵯峨谷の空家を購入した 【課題】活動に参加する地域住民のすそ野を広げること。
【事業名】生活支援体制整備事業 【概要】地域の区長、民生委員、老人クラブ、有志の方等が集まり地域の課題を発見し課題解決に向け話し合い、支援内容を創出する 【主な成果】生活支援、移動支援、見守り訪問、買い物支援等 【課題】地域課題を住民自身が考える必要性（住民自治）の底上げ
【事業名】はぐくむ委員会 【概要】橋本市の自治と協働をはぐくむ条例の実効性の検証と見直しを行っている。 【主な成果】協働のすごろくを作成し、橋っ子祭り等市のイベントで配布することで協働を知る契機を提供している。また、職員研修を企画し、市職員の協働の意識向上につながっている。 【課題】条例の周知を引き続き図る必要があるとともに、2年の任期ごとに自治と協働推進の具体化を図る必要がある。
【事業名】盆踊り大会 【概要】地域の運営委員と公民館で取り組む。盆踊りによる、地域交流（子どもから大人まで）地域活性化 【主な成果】盆踊りによる、地域交流（子どもから大人まで）地域活性化 【課題】担い手の高齢化、継続してくための後任者の育成

10. 協働を推進する上での、全庁的な課題と、その課題が発生していると思われる理由を挙げてください。

- 日々の業務に精一杯になっている。自分の業務と協働とのつながりがピンと来ていない。
- 仕事とプライベートをわけて考えるが、協働は分けて考えてはいけない。また、業務を横断的に考え、普段の生活での気づきや関わったことを意識し、その担当へフィードバックや報告をする、といった考え方が必要と考えています。
- 取り組む人がいつも同じ人ばかりの印象を受ける。取り組む人たちが高齢化してきている印象も受ける。
- 若手職員と地域団体や、自治会等との関わりが日常生活や業務であまり無いことが課題。
- 「協働」ということの理解が、全庁的にまだまだ弱いと思う。協働が、目的なのか、課題解決の手段なのかを理解できていないのでは。

11. 「あなたは今後、協働を増やしたい・始めたいと思いますか」選んだ理由

○ 増やしたい・始めたい

- 市民の方に市政に関心を持ってもらったり、職員だけでは手の届かないサービス提供のためには、協働が必要だと思う。
- 役所主導では、事業の継続性や推進に欠ける部分があると思う。地域住民が参加することで、地域の実情に応じた事業の推進ができ継続性も高くなると考える。
- 地域の存続・交流のために、地域での活動に参加したいと思うから。
- 職員の人数は増える見込みもなく、また地区ごとの課題が出てきて、地区ごとに対応できる人員が必要になると思うから。

○ 増やしたくない・始めたくない

- 今の働き盛りの世代は仕事は仕事、プライベートはプライベート。普段の仕事で疲れて休みの日は自分の時間を大事にしたいと考えている人が多いと思う。自分もそう考えているため、休みの日に何かボランティアをしよう！とはなかなか思えないのが現状です。
- 市民との調整などで、業務量など逆に負担が増えそうだから。
- 外部連携は意見がまとまりにくく、内容等を迅速に決定する必要がある業務には向かない。
- 多くが協働ではなく要望されるため。
- 費用対効果を実感できない。

12. 協働を市民に広めるためにはどのような方法が考えられると思いますか。

- 橋本市のことが好きだというシビックプライドの醸成と、協働の目的の明確化が必要だと思うので、様々な場で具体的に伝えていくこと
- ハシモを活用して、協働の周知やボランティアなどのきっかけづくり。
- これまでも行っていたらいい、広報や line などの媒体を活用、協働の説明会、地道な地域への説明が効果的だと思う。
- 廃校・廃園になった施設の活用。奈良下市町の KIT0 などは参考になると思います。
- 学校教育現場と連携して、初等教育に市の自治と協働の取り組みを学習する機会を設ける。言葉だけでは市民理解を得るのは難しいため、具体的な活動を通じて広報を行う。

- インターネット、広報、SNS などまずは周知活動が必要と思います。
- 住民からの多様な提案（チャレンジ事業）で、一定の事業費（少額ではない）を渡して継続的な事業としていく。協働＝ボランティアではなく、有償ボランティアを導入していく。
- 今回の橋っ子祭りで実施されたすごろくもその一つかと思いますが、「楽しい」「面白い」ことから、「こんなことも協働の一つなんだ」と思えるくらい低いハードルのものから沢山発信して、小さな協働に参加する人を増やせると良いなと思います。
- イベントなどを体験していただき口コミなどで情報を広げてもらう
- 職員が地域の中に溶け込むこと。
- 市主催のイベントに市民が主体的に企画などに参加してもらうとか、地域のイベントに市職員が積極的に参加するなど、お互いが地域に関心を持ち、自分たちのできることからやっていくこと。

13. 職員への協働研修を今後も検討しています。どのような研修が良い（参加したい）と思いますか。

- 他市で行っている事例を基にして、他市職員を講師にお招きし協働の生の声を聞いて生かせるようにする。
- 今年協働研修に参加させていただいて、はしもとプラチカの活動内容などを聞くことができたので、やはりこういう取り組みをしているというのを直に聞けることはすごくプラスだと思います。また、他の課での取り組みなどもグループワークで聞くことができたので、勉強になったので、今回のような研修がいいと思います。発表より、色々な取り組みを聞く方が勉強になるのではないかと感じました。
- ワークショップ（自分の課の課題と市民の困りごとを挙げて、共通点を見出す研修）※解決策が出なくても良い
- 協働についての基本や先進自治体の具体的な取り組みを学習するeラーニングと、橋本市で行っている協働の取り組みに参加・体験する研修。
- 研修のみでなく実際の協働活動の場へ参加する。所属課問わず継続活動を望む職員のスタートの機会となるような研修（課としては取組み困難でも自主参加の機会など）
- 協働の定義や、市としての方向性や将来的なビジョンなどを共通認識として持っておきたいので、そういったことを教えて欲しいと思いました。
- 他市町村の取り組み事例の紹介や取り組みに至るまでのプロセスを聞ける研修。
- 自分がどういう働きができるかわからないため、NPO や市民活動団体の活動内容や特徴の研修を受けたいと思います。
- こども食堂や子ども・保育に関わるボランティア団体などとの協働研修があればよいのかなと思います。